

2.4 今後の課題

本年度の調査結果より、モニタリング精度の向上のため、測定装置及び監視システムについて以下の措置を講ずることが必要である。

(1) 感雨計の設置

本調査において、空間線量率の上昇にもかかわらず、降水量の記録が0のものが多くあり、その際のγ線通過率の上昇から降雨時のラドンの娘核種による影響と推察する事例があった。このため、降雨計では測定できない0.5ミリ未満の雨の影響を感知するため、感雨計を設置することが必要である。

(2) 積算流量値の設置

本調査において、ダストモニタで使用したろ紙を3ヵ月分集め、核種分析用試料としており、該当期間の集じん量を正確に把握する必要があるが、ろ紙交換、点検、停電等によりダストモニタまたは監視システム端末が停止した際に、システムの積算流量が正しく表示されなくなる例があった。このため、積算流量を正確に把握するために、積算流量計を設置する必要がある。